

授業科目 特別支援教育総論

特別支援教育講座 花熊 暁

受講者数 10名

1. 授業の目的

本授業は、大学院特別支援教育専攻の2つの専修に共通の必修科目で、大学院において特別支援教育の基礎研究や臨床研究を行うための基礎となる授業科目である。また、本授業は、日本LD学会・特別支援教育士資格認定協会が認定する特別支援教育士(S.E.N.S)の資格に対応しており、本授業の2単位を取得することで、S.E.N.S養成セミナーの「特別支援教育概論」の4ポイントに代替することができる。

本授業の目的は、以下の3つである。

- (1)特別支援教育の歴史・制度について理解する。
- (2)幼稚園、小学校、中学校、高校の通常の学級における支援体制作りの実際について知る。
- (3)LD、ADHD、高機能自閉症等の知的な遅れない発達障害の状態像とこれら児童生徒への配慮・支援の基本について理解する

2. 受講者について

本授業の受講者は、特別支援教育コーディネーター専修6名(現職教員5、非現職1)、特別支援学校教育専修3名(現職教員1、非現職2)、聴講生1名(言語聴覚士)の計10名である。

3. 授業評価アンケートとその結果

授業評価は、ア)授業内容の理解に関するもの：3項目、イ)授業の進め方に関するもの：2項目、ウ)授業の意義に関するもの：1項目、エ)授業への感想と改善意見：自由記述、の計7項目からなる授業評価アンケートを授業終了時に実施した。

(ア)授業内容の理解について

項目1「特別支援教育の歴史・制度が理解できたか」については、“よく”と答えた者6名、“かなり”と答えた者、3名、“どちらとも言えない”と答えた者1名であった。

項目2「学校・園における支援体制作り実際に

ついて理解できたか」については、“よく”5名、“かなり”4名、“どちらとも言えない”1名であった。

項目3「発達障害の状態像とその支援の基本について理解できたか」については、“よく”8名、“かなり”2名であった。

(イ)授業の進め方について

項目4「教員の説明のしかたやプレゼンテーションのしかたは適切か」については、10名全員が“非常に適切”と回答した。また、項目5「授業で配布した資料の内容や量は適切だったか」については、“非常に”が9名、“かなり”が1名であった。

(ウ)授業の意義について

大学院にカリキュラム中に本授業が設けられている意義については、コーディネーター専修、特別支援学校教育専修の9名全員が“非常に意義がある”と答えた。

(エ)授業への感想と改善意見：自由記述

授業内容や授業の進め方が適切だったと答える者が多く、特に改善意見は示されなかった。

5. 授業の評価と課題

本授業の受講者は、特別支援教育専攻の2つの専修にまたがっており、かつ、受講者には現職教員と学部卒者の両方がいるので、各受講者のニーズにマッチした授業をどう行うかが、授業者として最も心を配らなければならない点である。授業アンケートの結果が示すように、本授業に対する受講者の評価は肯定的であり、授業目的は概ね達成されたと考えるが、授業目的(1)~(3)のうち、(1)と(2)については、さらに理解が十分に行えるように配慮・工夫する必要がある。このうち(2)については、後期に実施する「学校における支援体制」の授業で受講者の一層の理解を深めることが可能であるが、(1)については、歴史や制度について図式化した資料を作成するなど、受講者が理解しやすい工夫を次年度に行う必要がある。